

沖縄県知事選が目前に迫つて、沖縄の事態を考慮する。トマール沖縄の玉城デニー知事が再選を何としても勝ち取る、鹿児島文雄・自公政権が強行してくる辺野古新基地建設や、「敵基地攻撃能力」の保有など「戦争する」判断をして、「二度と沖縄を戦場にさせない」という歴史の想い、「命じて死んで戻らぬ」反戦平和の沖縄の心を守るためにが必要です。

主張

迫る沖縄県知事選

軟弱地盤の改良工事のために政府が申請した設計変更を不承認にしていました。そのため同窓での埋め立て工事は不可能になっています。今回の知事選でデニー氏を再び勝利させると、県民の辺野古新基地反対の意図を改めて政府に突き付け、建設断念に導く込む決定

補の古賀義太田が知事選の候補に決まり、佐賀県選出は運動していく（井郷タイムズ、2011年）と明らかにしてある。

今年の夏、ドニー知事は本土復帰50年を機に、「平和で豊かな沖縄の実現」に向けた新たな建議書「審」をまとめました。この中で

眞理の知識選候補者演説集
と主張してゐるのと対照的です。
故・翁良雄志前知事と(二)一
事の下で大きく前進した算りしも
福祉施策のさらなる充実も大切です。「誰一人取り残さない沖縄」
がアーチー知事の信条です。仲井
弘多元知事時代より3歳までだった

「知識論」と位置づけ、「監督の権限」(技術敏銳性と併せて幹事会)を図り、総力を挙げて政治運営へ執念を燃やしてこます。それをばねに返して、「一知識の重選を果たす」など、「オール知識」の団結の堅锐の共感、全国からの連携・支援を以て、その強みをいかが急がれます。

県外・国外への早期移設、開墾・返還を政府に認めた求めて、「ハトミ」と述べました。19年2月の衆院投票で示された「超超の辺野古新基地反対の同意」をえたものです。

一方、自民党沖縄県連が擁立を
決めた佐藤寅博前宜野湾市長は、
辺野古新基地推進の立場です。
同県連の農業大幹事長は、「(辺
野古新基地認認など) 参院選の政
策は知事選の選舉公約や政策でても
ある」(参院選沖縄選挙区公認候

田政権が進める「社総の監事各能を強化しようとする動き」、「敵地攻撃能力」保有の議論などが、ついで「悲惨な辻戦を経験した眞臣の平和を希求する恩は金へ相成るものではない」と批判し、平和的な外交・対話による緊張緩和と信頼醸成を政府に主張する。

全国からの連帯・支援を
学校卒業まで窓口負担が無料になりました。小学校5年生までだった少人数学級は、二一県政で中学校3年生にまで拡大されました。